

くにみ 議会だより

No.168
3月議会号



初めての教科書、これから楽しみだなあ！

国見小学校入学式のように。校長先生から教科書を受け取り、学校生活への期待感が高まります。子どもたちの成長が楽しみです。

3月定例会

**第5次振興計画(後期計画)に基づき
地方創生に本格的に取り組む**
(平成28年度当初予算) ————— P2

第5次国見町振興計画(後期計画)など(条例・一般議案) ——— P8
一般質問(耕作放棄地の解消対策についてなど9人が登壇) — P12
議員定数問題や道の駅について行政調査(岐阜県池田町) — P22
傍聴者からの声「議会に関心のある人が多いと感じた」 ——— P23

一般会計当初予算 91.4億円

基づき地方創生に本格的に取り組む

- 除染対策事業
- 営業再開支援事業
- 首都圏での物産展事業
- 放射線対策健康管理事業
- 農産物PR事業

39億9357万円
 9億820万円
 5億26万円
 3億95万円
 3億00万円

大震災からの早急な復旧復興

平成28年度の当初予算は 91億4000万円、前年度に比べ20億9000万円（18.6%）減となり、全員賛成で可決しました。

当初予算は「国見のみらいをつくる5つの目標」を柱に、除染対策の推進や阿津賀志山防塁の整備のための経費などが計上されました。

除染対策に 39億9357万円を計上

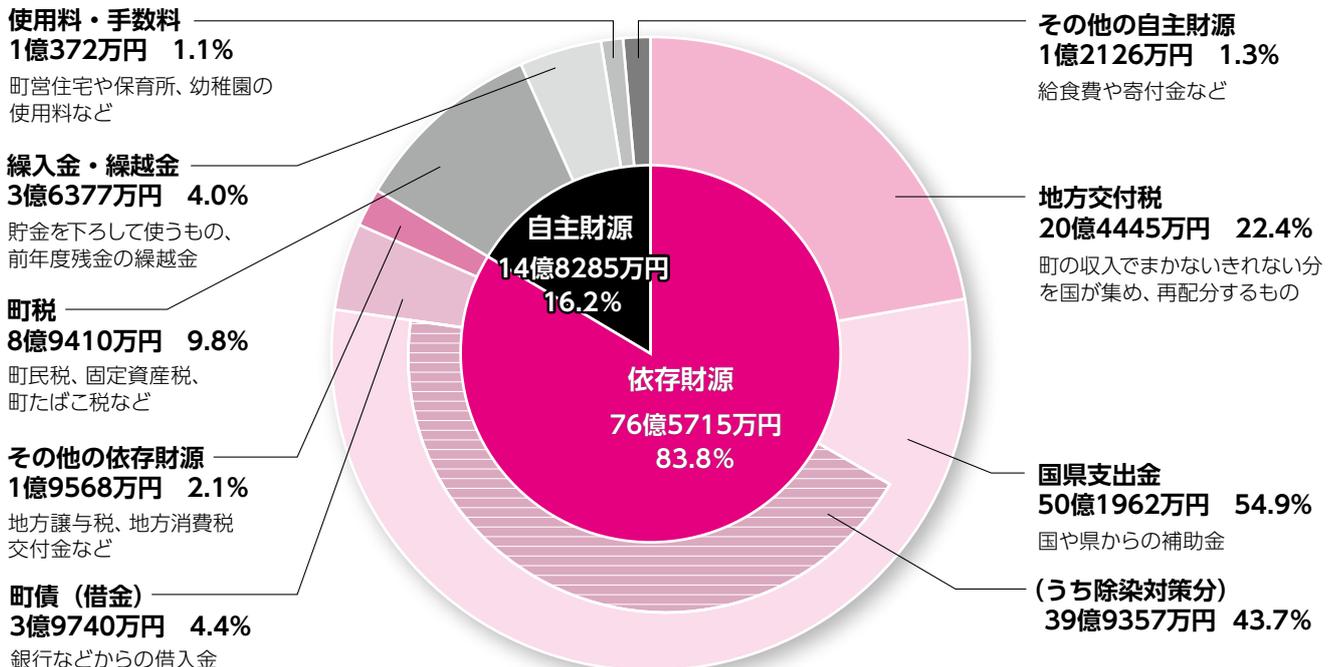
平成28年度一般会計当初予算

3月議会定例会は3月3日から17日まで15日間の会期で開かれました。

今定例会には、91億4000万円の一般会計当初予算や27年度補正予算、町の第5次振興計画（後期計画）など42議案が提出され、すべて原案どおり可決、同意、決定されました。

一般質問では9人の議員が登壇し、13項目にわたって町政をただしました。

歳入 91億4000万円





木のおもちゃで遊ぶのも楽しいね(3月ウッドスタート宣言協定書締結式)

3月定例会

平成28年度

第5次振興計画に

安全安心なまちづくり

- 消防車両の購入、消防屯所の整備事業 3398万円
- 防犯灯LED化事業 640万円
- 防災訓練の実施事業 127万円

活力あるまちづくり

- 交流の場(道の駅)整備・徹底活用事業 19億4000万円
(27年度からの繰越予算を含む)
- 義経まつりなど元気活力事業 1713万円
- 芸術文化振興事業 665万円
- 応援団ツアーなど観光・交流事業 361万円
- ビッグツリーなどまちづくり推進事業 287万円
- 木育(ウッドスタート)事業 100万円

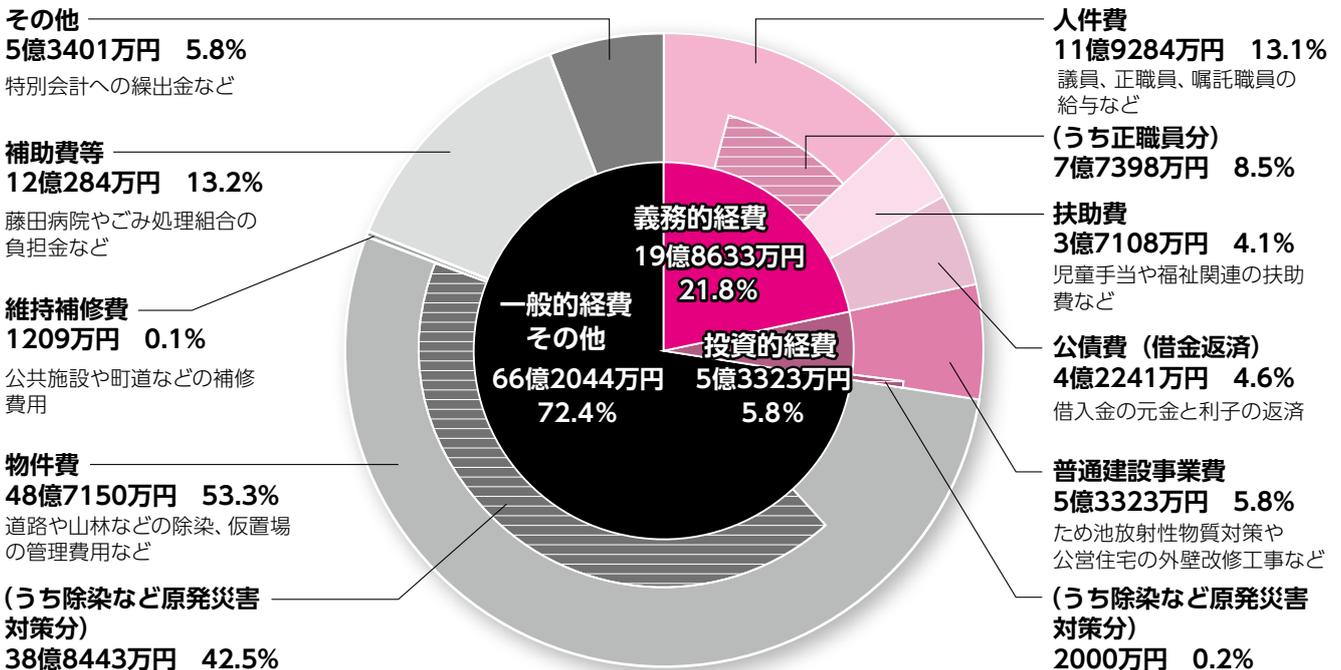
思いやりのあるまちづくり

- 放課後子どもクラブなど子育て支援事業 4126万円
- ももたん広場の運営事業 1219万円
- いいききサロン、高齢者支援事業 642万円
- 元気まつりなど介護予防事業 183万円
- キッズフェスティバル事業 83万円
- 幼小中一貫教育事業 39万円

町の継続的な維持発展

- 阿津賀志山防塁の整備事業 2400万円
- 桃せん孔細菌病対策事業 1650万円
- 歴史を活かしたまちづくり事業 684万円
- 町民相談室兼消費生活相談事業 421万円
- 新規就農者支援事業 370万円
- 東京くにみ会事業 270万円

歳出 91億4000万円



1. 東日本大震災からの早急な復旧復興

県北浄化センター汚泥の全量搬出に向けた監視体制の継続。除染対策、放射線対策健康管理、農産物の検査体制の維持と風評被害払拭。

2. 安全安心な町政の実現

防災訓練や各地区自主防災会連絡協議会への支援の継続。

3. 活力ある町政の実現

農商工一体の町民が集える交流の場（道の駅）の整備。交流人口の増加を目指した「まちづくり交流推進事業」の展開。農業の6次化^{*}の推進。各種のイベントの実施。

4. 思いやりのある町政の実現

旧大木戸小の廃校活用。屋内遊び場、預かり保育、放課後子どもクラブの運営など子どもの育成。生きがいデイサービス、いきいきサロン、介護予防など高齢者事業の推進。

5. 町の継続的な維持発展

地方創生総合戦略に位置付けた事業や歴史を活かしたまちづくり事業への取り組み。町内外への情報発信を強化。国・県など関係機関との連携。

^{*}6次化とは 農業が食品加工や流通販売にも業務を展開すること。

施政方針に対する質問

佐藤定男議員

「しんか」という

言葉に込めた町

長の思いは

問

「国見の未来をつくる5つの目標」を少しでも「しんか（進化・深化）」できるよう鋭意対応していく、とのことだったが、「しんか」という言葉に込めた思いを伺う。

町長

これまで「集中復興期間」のまちづくりに対し、町長就任1年目は「復旧」、2年目は「再生」、3年目は「創生」、4年目は「しんか」をイメージして対応してきた。「国見の未来をつくる5つの目標」にしたがって事業を進めてきて、大震災からの復旧・復興や再生・まちづくりに少しづつ光が見えてきたと感じている。その光を大き

くしたい、前に進めたい、付加価値をつけたいという思いで「しんか」とした。

除染対策はどう

進めていくのか

問

町の除染は、現在行っている作業が進めば完了なのか。今後対象の拡大を考えているのか。

原発災害対策課長

どこまでも取り組むのかについて現時点で明確に示すことはできない。平成28年度も引き続き道路や生活圏の森林の除染などに取り組むことになっている。

環境省では除染の加速化を図り、平成28年度には市町村の除染を終了したいとしており、一定の方

向性が見えてくるものと考えている。新たな課題として里山除染の方針が示されれば町としての考えをまとめることも必要となる。最終的に、仮置場で保管している除去土壌等がすべて中間貯蔵施設に搬出されない限り除染関連事業は完了しないものと考えており、長期的なスパンでの取り組みになると認識している。



道路除染も順調に進められている

風評被害払しょくの今後の対策は

問

風評被害の払しょくは相手の意識の問題もあり時間のかかる難しい問題だが、今後どのような対策を取るのか。また、新たな対策はあるのか。

産業振興課 長

まずは放射線対策を徹底し、

安全安心を積極的に内外に情報発信していくことが必要であると考えている。健康管理調査や農産物の検査体制の維持などで安全安心を担保するとともに、トップセールスや農産物の交流PR事業、東京くのみ会や女性応援団ツアーなどの事業も積極的に進めていく。

また、道の駅を核とした交流の場のオープンに先駆けて開催しているくのみ市場やまちづくり会社による米やモモなど特産品のブランド化、6次化など付加価値をつけた製品の情報発信や全国販売に向けた展開も新たに必要と考えている。

4大イベントは今後も継続させるのか

問

震災後5年が経過して財政も厳しくなる中、国見ルネサンス、義経まつり、きずなイルミネーション、フードフェスタの4大イベントは今後も継続させていくのか。

町長

町の今後の維持発展には活力・元気がなくてはならない。財源については非常に重要な課題と認識しているが、国や県とうまく調整しながら、何らかの形で4大イベントを継続的に実施できるように配慮したい。

奥山邸周辺整備の具体的な計画はあるか

問

「歴史を活かしたまちづくり」が町の継続的な維持発展には欠かせない。阿津賀志山防塁は、整備基本構想概要版では平成29〜34年度にかけて下二重堀周辺を整備するとしているが、奥山邸の周辺整備については具体的な計画はあるのか。

企画情報課 長

歴史まちづくり計画に沿い、阿津賀志山防塁周辺の整備は現在検討委員会で進めている。奥山邸の周辺整備については、下二重堀の整備後に計画を策定し、具体的な整備に入る。

復興創生期間へ向けての町長の思いは

問

震災後、この3月までの5年間は集中復興期間として様々な施策を行ってきた。今後5年間は復興創生期間として進められるが、改めて町長としての決意、思いを伺う。

町長

町民主役を意識し、「オール国見」で震災復興や再生まちづくりに対応し、町として皆さんと連携し、町の中をしっかりと固めることが重要だと考えている。一方で、町が孤立しないよう、国や県をはじめとする様々な関係機関と連携した外向きの対応で交流人口を拡大することにより、人口減少の歯止め

にもつながると考えている。

「復興・絆、交流・連携―国見の未来をみんなでつくる―」の思いをベースに、復興創生期間において復興の光を大きく「しんか」させることにより、町の維持発展に鋭意対応していく。

人 事

大木戸財産区管理委員に7人を選任

大木戸財産区管理委員の任期満了により、次の7人の選任に同意しました。

佐藤 秀昭氏(貝田)
岡田 盛雄氏(貝田)
武田 将幸氏(大木戸)
松浦 節夫氏(大木戸)
渡部 勝利氏(高城)
蓬田 正氏(高城)
松浦 幹男氏(西大枝)



フードフェスタでも大人気の国見バーガー

当初予算の主な質疑

歳入

預金利子の減は マイナス金利政 策の影響か

問 (佐藤定男議員)
町預金利子14万5000円の予算は、前年比2万5000円の減だが、日銀のマイナス金利導入の影響を考慮したものなのか。また、低金利下での今後の運用方針を伺う。

會計管理者 平成27年度の実績をもとに計上したもので、1年以内の短期の定期預金での運用には、現在のところマイナス金利政策の影響はないものと考えている。

また、資金に余裕がある場合、町の資金管理・運用基準に基づき今後も指定金融機関などに定期預金で預

け入れを行い、預金利子の確保に努めていく。

体育施設の使用 料は適正か

問 (井砂善榮議員)
町の体育施設は9施設あるが、使用料は適正なのか。

生涯学習課長 使用料は条例に基づき負担をお願いしているが、一部町民については無料や減免となる施設もある。

歳出

年金生活者支援 臨時福祉給付金 の対象者は

問 (渡辺勝弘議員)
年金生活者支援臨時福祉給付金4200万円は、高齢者すべてが対象と

なるのか。また、対象外の方への説明はどうするのか。

保健福祉課長 国の政策として平成27年度町民税非課税の方の内、平成28年度中に65歳以上になる方が対象で、1人につき3万円が支給される。ただし、課税されている方に扶養されている場合は対象とならない。

また、制度の周知について、国ではテレビやインターネットなどあらゆるメディアを通して公表をするとしている。町ではちらしなどでの周知のほか、対象者には直接給付案内の通知を郵送する予定である。

仮置場の契約は 当初の期間で終 了するのか

問 (阿部泰藏議員)
原発災害対策費の用地借地料1932万円についで、仮置場の契約は平成25年から3年という国の取り決めだが、今年度末で契約は終了するのか。

今年度末で契約が終了するのは5か所だが、中間貯蔵施設整備の状況により延長せざるを得ないと考えている。3年の期間で再度契約を變更して進めていく。次年度以降も契約期限が訪れるが、同様に3年で更新をお願いしていく考えである。

原発災害対策課長 今年度末で契約が終了するのは5か所だが、中間貯蔵施設整備の状況により延長せざるを得ないと考えている。3年の期間で再度契約を變更して進めていく。次年度以降も契約期限が訪れるが、同様に3年で更新をお願いしていく考えである。

防火水槽と消火栓の 設置数減の理由は

問 (渡辺勝弘議員)
平成25年3月定例会で、防火水槽や消火栓は毎年2基で計画的に設置していると答弁があったが、1基に減った理由を伺う。

平成25年度の基分として計上されたが、実際のところかなりの工費がかかった。震災以降、資材の高騰などで工事費が高くなっている状況もあり、復旧復興の事業との兼ね合いも踏まえ、消防団の幹部会議でも協議した上で、毎年1基で行っている。

体育施設の管理 体制は十分か

問 (井砂善榮議員)
体育施設の管理は1人体制で十分に足りているのか疑問だが、管理体制をどう考えているか。

非常に長時間にわたる業務だが、個人での請負で実施しているのが現状であり、平成28年度は改善していくよう検討中である。



3月の初午では役場庁舎への放水が行われた

■平成28年度各会計当初予算

会計名	平成28年度 当初予算	前年度対比		
		増減額	増減率	
一般会計	91億4000万円	△20億9000万円	△18.6%	
特別会計	国民健康保険	13億7451万円	△8713万円	△6.0%
	介護保険	11億2610万円	3465万円	3.2%
	公共下水道事業	2億3043万円	△279万円	△1.2%
	後期高齢者医療	1億1041万円	△539万円	△4.7%
	土地開発事業	4550万円	△400万円	△8.1%
	渇水対策施設	918万円	149万円	19.4%
	入山財産区	17万円	0万円	0.0%
	大木戸財産区	16万円	0万円	0.0%

■水道事業会計

収支別	収入	支出
収益的収支	2億5738万円	2億3318万円
資本的収支	2億3497万円	2億7768万円

※資本的収支の差は内部留保資金で補います。

国見小校庭の改修 は原発災害対策費 でまかなえないか

問

(村上正勝議員)

教育費の国見小学

校庭改修工事について、フレコンバッグが埋め立てであった場所だが、原発災害対策費でまかなうことはできないのか。

**原発災害
対策課長**

小学校の校庭に埋設していたものを掘り起こし、現在パイロット輸送を行っているが、その際埋め戻しを行った。その作業に明確に起因することがわかれば除染対策事業交付金の中で認めてもらえるものもあるが、因果関係がはっきりしないものまですべて整備できるものではない。

幼稚園から英語活動をする理由は

問

(佐藤定男議員)

幼稚園では日本語

の習得でも精一杯であるが、あえてこの時期に英語活動を取り入れた理由を伺う。

**幼児教育
課長**

現在、幼稚園でも中学校の英語指導助手による歌やゲームを通して英語に親しむ活動をしている。保幼小中一貫教育の中で国際教育の充実が掲げられており、幼稚園から小学校の英語活動へつなげるため、おもに年長児を対象に週1回、各クラス30分程度予定している。

電気料の自由化による削減の考えは

問

(八島博正議員)

需用費の電気料について、4月1日から電気料の自由化にともない、町では電気料削減についてどのように考えているのか。

また、プロジェクトチームを立ち上げての検討も必要だと思いがいかか。

総務課長

施設の電気料について、まずは今の契約の中で、消灯などにより瞬間的にピークの電気料を抑えることで総額を抑えることも含めて検討したい。

また、自由化にともなう電気料については、それぞれの内容を調査しながら今後検討していきたい。

副町長

自由化の状況を十分見極めて対応し、検討委員会の設置については前向きに検討していきたい。

観光要素のある林道の定期的な見回りの予定はあるか

問

(浅野富男議員)

町の全体的な計画からすれば、林道北口線や赤坂線など観光要素もあると思う。今後手入れもきちんとしなければならぬが、定期的な見回りなどの予定はあるのか。

また、プロジェクトチームを立ち上げての検討も必要だと思いがいかか。

建設課長

春先の通行量も増えるので、道路巡視員により、倒木などで通行に支障がないか、月水金でパトロールをしている。

敬老祝金は近隣と比べてどのような状況か

問

(松浦常雄議員)

敬老会事業の敬老

祝金880万円は、長寿者が増えると金額も大きくなるが、近隣と比べてどうか、今後見直す考えはあるのか。

保健福祉課長

町では85歳以上の方に1万円、99歳以上の方に毎年20万円を差し上げている。近隣の状況をみるとポイント的に喜寿、米寿、100歳に祝金を支給することが多い。町の状況と照らし合わせて精査し、今後見直しを検討していきたい。

条例制定

総合計画策定の根拠を 町独自で定める

国見町総合計画策定 条例

(要旨) 基本構想を定める
ことが地方自治法に規定さ



国見のこれからを考える(まちづくりカフェ)

審査会の設置を合わせて規定する。
(全員賛成で可決)

県営ほ場整備の 分担金を徴収

国見町県営土地改良
事業による分担金の
徴収に関する条例

(要旨) 土地改良法に基づ
き、県営ほ場整備の実施に
あたり分担金を徴収するた
め、総額と徴収額など必要
な事項を定める。
(全員賛成で可決)

道の駅管理の 必要事項を規定

国見町道の駅の設置及
び管理に関する条例

(要旨) 道路利用者への休
憩の場の提供、情報の発信
並びに子育て支援の充実を
図ることで町民と来訪者と
の交流を促進し、地域産業

の振興や地域の防災拠点と
して町民の福祉の向上を
図ることを目的として、国と
一体型で道の駅を設置し、
その管理に関して必要な事
項を定める。
(全員賛成で可決)

宿泊施設は 含まれないのか

問 (浅野富男議員)
条例に宿泊施設の
記載がないが、複合施設の
中には含まれないのか。

建設課長 条例上は起債に係
る事業としての名称
を付けており、宿泊の部分
は「避難者休憩施設」とい
う名称である。施設オー
プンの際には、改めてわかり
やすい呼び名を付けたいと
考えている。

条例改正

地域密着型通所介護 の基準を追加規定

指定地域密着型サ
ービスの事業に関する
基準を定める条例

(要旨) 介護保険法の改正
により、新たに地域密着型
通所介護が創設されること

進行中の施設の運営 のための改正か

から、サービスの人員、設
備および運営に関する基準
を定めるため改正するも
の。
(全員賛成で可決)

問

(渡辺勝弘議員)
現在国見の里で進
めているグループホームや
*ミニ特養をうまく運営する
ための条例改正と考えてよ
いか。

国見町行政不服及び
情報公開・個人情報
保護審査会条例

第三者機関としての 審査会を設置

れていたが、地方分権を推
進する趣旨から規定が削除
されたため、独自に総合計
画策定の根拠を規定するも
の。総合計画に関し必要な
事項を定めることにより、
総合的かつ計画的な町政運
営を図り、住民福祉の増進
に資することを目的とす
る。
(全員賛成で可決)

(要旨) 行政不服審査法の
改正にともない、第三者機
関として行政不服、情報公
開、個人情報保護の3つの

保健福祉課長 いずれのサービスもすでにこの条例に盛り込まれている。今回の改正は定員18人以下の小規模のデイサービス事業が対象だが、町内に現在該当するものはない。

※ミニ特養とは
定員29人以下の小規模特別養護老人ホームのこと。

介護職員確保のための方策は

(浅野富男議員)

問 介護にあたる職員は待遇も良くないため不足しているが、今後職員をどう確保していくのか。

保健福祉課長 基本的にその介護職員を抱える施設が確保に意を配する。介護報酬の部分は今後の国の動向を見極めていき

たい。

一般議案

町振興計画の後期計画を議決

第5次国見町振興計画(後期計画)

(要旨) 平成28年度から平成32年度までの第5次国見町振興計画の後期計画について定める。

(反対1、賛成10で可決)

人口増加を図る計画の具体的な内容を問う

(村上正勝議員)

問 移住・定住I・U・Jターイン促進事業で、農業の担い手の確保と移住・定住人口の増加を図るとあるが、計画の具体的な内容は。

企画情報課長 道の駅の徹底

興を図っていくことが基本になる。また、約6割の方が地域に定住するという

実績のある地域おこし協力隊の導入を含めて、移住・定住に向けた事業につなげたい。

※I・U・Jターインとは
①Iターイン
地方から都市、都市から地方へ移住すること。
②Uターイン
地方から都市へ移住したあと、再び地方へ移住すること。
③Jターイン
地方から大規模都市へ移住したあと、地方近くの中規模都市へ移住すること。

観光客を呼び込む司令塔はどの課なのか

(松浦常雄議員)

問 町の資源を活かした観光振興の担当課としていくつかの課が示されている。観光客を呼び込むには中心となってPRをする司令塔が必要だと思いがいかか。

企画情報課長 町民がこの部分は良いのかわかるよう担当課を1つに絞って記載したが、事業の実施についてはプロジェクトチームを立ち上げて進めている。

農業を活かしたグリーンツーリズムの計画の内容は

(村上正勝議員)

問 農業を活かしたグリーンツーリズムでは、道の駅の宿泊を利用するのか、特定の農家を活かすのか、どのような計画か伺う。

企画情報課長 道の駅の利用が、町にある宝物、資源を体験してもらうことが一番大事になってくる。宿泊の面で言えば、民泊や空き家の活用も十分検討しなければならぬと考えている。

※グリーンツーリズムとは
農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のこと。

各事業を総合戦略・振興計画にどうかみ合わせるのか

(佐藤定男議員)

問 まち・ひと・しごと創生総合戦略が振興計画を補完する形で進められるのか、それぞれの事業をどのようにかみ合わせていくのか伺う。

企画情報課長 まち・ひと・しごと創生総合戦略は、仕事づくりや人づくり、交流づくりが重要な部分で、それを包括するのが振興計画である。総合戦略に掲げる事業をリーダーシッププロジェクトとし、振興計画(後期計画)を実現させたいと考えている。

町の地方創生を加速化

平成27年度補正予算のうち、一般会計(第4号)は、地方創生を加速化するために8000万円の増額があるものの、年度末の予算整理により5億931万円を減額し、予算総額117億5874万円とすることを全員賛成で可決しました。

質疑

宮農再開支援事業補助金の減額による支障はないのか

問

(佐藤定男議員)
福島県宮農再開支

平成27年度一般会計補正予算(第4号)のおもな内容

【おもな事業】

- ◎地方創生加速化交付金事業 (国見ブランド育成・6次化商品開発など) 8000万円
 - ◎除染除去土壌等の搬出費用の不足分 5276万円
 - ・ふるさと振興基金(貯金)への積み立て 5132万円
 - ・公共施設整備基金(貯金)への積み立て 3000万円
 - ◎情報セキュリティの強靱化費用 2836万円
 - ・文教施設整備基金(貯金)への積み立て 1998万円
- (◎は28年度に繰り越して実施する事業)

【主な財源】

- ・前年度からの繰越金 2億1437万円
- ・地方交付税(国から交付金) 4146万円
- ・国庫支出金 1599万円

【予算に計上済みだが、28年度に繰り越しが決定した主な事業】

- ◎道路・空地等の除染、除去土壌の搬出、仮置場の整備など 12億5900万円
- ◎町営住宅改修事業 5000万円
- ◎ふくしま森林再生事業(石母田・大木戸地区) 3000万円

援事業補助金で4522万円の減額があるが、減額をすることで支障はないか。

産業振興課長

おもな要因は、果樹改植事業の今年度の事業が確定したことにより、約4000万円の減額となったものである。

米の吸収抑制対策についても、塩化カリの散布量が若干減ったことにより475万円の減額となった。

町の除染はもう

十分できているのか

問

(渡辺勝弘議員)
原発災害対策費の

委託料で3億3350万円の減額だが、町の除染は十分できているという判断で良いか。

原発災害対策課長

施設管理2億7064万円の

減は仮置場の管理業務で、除去土壌等の積み込みと遮蔽業務にかかる分となるが、各種除染の進捗状況や除去土壌等の発生量による不用減である。

町債(借金)の残高

会計名	27年度末 借金残高	28年度末見込 借金残高
一般会計	63億1000万円	70億1219万円

基金(貯金)の残高

会計名	27年度末 貯金残高	28年度末見込 貯金残高
財政調整基金	8億5299万円	6億1465万円
東日本大震災復興支援交付金基金、復興基金	9972万円	7431万円
その他の基金(一般会計)	4億1829万円	3億6238万円
基金総額(一般会計)	13億7100万円	10億5134万円

共済費減額の理由は

問

(八島博正議員)
共済費全体で592万円の減額だが、共済組合の掛金率が変わっての減額なのか、人数減など別な理由があるのか。

除染作業委託で9690万円の減は、27年度の実績に基づく不用減である。除染が終わるということではなく、新年度は改めて予算をお願いしている。

総務課長

人数はほぼ変わらないが、職員の構成が若返り共済費を一定の割合で引き下げることになっている。算定の方法が民間と同じような標準報酬制に変わったことから減額となった。

※標準報酬制とは
報酬月額(基本給+実際に支給された諸手当の額)に掛金率を乗じて算定する制度。

町長の行政報告

■東日本大震災からの早急な復旧・復興

- 除染対策は、道路、生活圏の森林、寺社などの除染、除去土壌等のパイロット輸送を進めている。
- 県北浄化センターの汚泥は、2月中旬までに約31%が減容化され、順次、飯舘村蕨平地区の廃棄物等処理施設へ搬出されている。
- ホールボディカウンターによる内部被ばく検査は、2月末までに受検された方には健康に影響を与える数値は検出されず、年度末まで引き続き検査を実施。
- 平成28年産米の作付は、引き続き吸収抑制対策を実施するとともに、全量・全袋検査の実施を決定した。生産数量の目標は、集計の結果37.7%の配分率となった。
- 平成27年産のあんぼ柿は、非破壊検査を実施したところ、原料柿の移動も可能となったことで出荷制限基準値超えの製品も見られ、引き続き県および関係団体と連携した産地再生の取り組みが必要である。

■安全安心なまちづくり

- 野生鳥獣侵入防止柵設置事業は、小坂地区はほぼ終了し、その他の地区についても引き続き対策を強化したい。

■活力あるまちづくり

- 道の駅建設工事は、2月から仮設工事に着手し、引き続き杭工事の準備を進めている。

- 特産品の6次化事業の取り組みでは、「もも大福」や新酒「あつかしさん」などの販売も開始された。3月18日には6次化商品などを披露する「道の駅開業1年前プレパティ」が行われた。

- ウッドスタート事業は、3月5日にNPO法人日本グッドトイ委員会と「ウッドスタート宣言」に関する協定書が締結された。

■思いやりのあるまちづくり

- 平成27年4月から開始された「子ども・子育て支援新制度」を周知するため、町の子育て支援事業をまとめた「国見町子育て支援ガイドブック」を作成する考えである。

■町の継続的な維持発展

- まち・ひと・しごと創生総合戦略の事業は、桜の聖母短期大学と福島大学との域学連携事業を地域活性化のために今後も進めていく考えである。3月19日には国見の食や生活文化を改めて見つめなおす「食の文化祭」を開催した。
- 第5次振興計画(後期計画)は、3月定例会で策定された。
- 若者交流事業は、2月11日にスマイル国見若人の会の主催による「婚活セミナー」、3月13日に「結婚シンポジウム」が開催された。
- 県北中学校の外壁改修事業等は、外壁改修工事は40%の進捗率で8月末の竣工を目指している。

意見書

3月定例会では意見書2件を可決し、国など関係機関へ送付しました。

給付型奨学金制度の導入・拡充と教育費負担の軽減を求める意見書

現在の貸与型奨学金制度の改善、大学等の学費の引き下げや授業料減免の拡充を図り、若者を社会全体で支援し、少子高齢化や人口減少、地方の衰退に歯止めをかけるよう求めるもの。

可決

福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書

本県の復興促進や労働人口の流出防止、中小・地場企業の支援強化のため、最低賃金の引き上げと早期発効を求めるもの。

可決

みなさんからの陳情

3月定例会では陳情2件を委員会で審査し、結果は以下のとおりとなりました。

陳情	提出者	結果
給付型奨学金制度の導入・拡充と教育費負担の軽減を求める意見書提出の陳情について	日本労働組合総連合会 福島県連合会 伊達地区連合会 議長 高橋 誠一	採択
福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書提出の陳情について	日本労働組合総連合会 福島県連合会 伊達地区連合会 議長 高橋 誠一	採択

～9人の議員が登壇し、活発な議論を展開～



町政を問う

一般質問

3月定例会

一般質問とは、議員が町政全般にわたり執行状況や将来に対する方針など、諸問題について質問を行い、政治姿勢を明らかにするものです。

議員	質問事項	ページ
井砂 善榮	耕作放棄地解消対策への考えを伺う	13
	放射性セシウム対策は今後も続けるのか	
	中核営農組織体の育成強化対策はどう進めるのか	
佐藤 定男	道の駅の雇用問題、宿泊設備の計画はどうなっているか	14
	くにみもたんキャラクターの商品化は	
松浦 和子	平成28年度の高齢者向けの新規事業の予定は	15
村上 一	「農業振興ビジョン計画」が必要と考えるが町の考えは	16
阿部 泰藏	土砂災害などのないまちづくりへの取り組みは	17
渡辺 勝弘	廃校利用した施設を今後どう運営していくのか	18
松浦 常雄	阿津賀志山防塁の観光客の受け入れ態勢は	19
浅野 富男	高齢化による地域活動のありかたは	20
村上 正勝	県北浄化センターの汚泥は2年間で全量搬出されるのか	21
	危険箇所の安全対策をどう考えているのか	

質問、答弁は要約して掲載しています。会議録全文は、町議会ホームページに掲載予定です。[<http://www.town.kunimi.fukushima.jp/groups/gikai/>]

国見町議会ホームページ → 会議録検索 → 会議録検索システム → 会議録検索システムへ

Q 耕作放棄地解消対策への 考えを伺う

A まずは「人・農地プラン」を策定し、
関係機関と連携して対策に努める

問 個々の農業経営で後継者や新規就農者不足が深刻化し、耕作放棄地の解消が難しくなっている。現在、町の耕作放棄地の面積はどのくらいか。

産業振興課長

昨年8月から12月実

施の農地パトロールによる集計結果では、1年以上耕作されていない農地が町内合計で95・9ヘクタールである。また、2月18日の町農業委員会総会で非農用地と認定された農地が28・7ヘクタールなので、差し引き67・2ヘクタールである。

問 平地と山間部のそれぞれで解消対策を考えるべきだと思うが、町としての考えは。

町長

平地と山間部

問 消費者の信頼回復のために、今後も放射性セシウム抑制剤の散布は中長期的に続けていくのか。

産業振興課長

米の安心安全の確保、

機関と連携を図りながら耕作放棄地対策に努めていく。

放射性セシウム対策は今後も続けるのか



米の安心安全のため行われている
吸収抑制剤のようす

産業振興課長

農業を取り巻く情勢がますます厳しくなる中、担い手の確保や農地の集積を進め、農業生産コストの低減を図るための集落営農組織の推進は必要不可欠な事業と認識している。

**中核営農組織体の
育成強化対策はど
う進めるのか**

問

中核営農組織体の育成強化対策について、

既存の組織体と併せて新規組織体への対策をどう進めていくのか。

地域生産者の皆様の合意のもとでの組織化が必要となるので、話し合いの場の確保と情報提供を行い、組織化された段階で県やJAの専門的な立場からの助言のほか、様々な制度の中での補助事業などの対応をしていきたい。



井砂善榮議員

ではなく、一元的な形で特徴のある解消策をしっかりとやっていくことが非常に大切と思っている。まずは「人・農地プラン」の策定が必要と考えており、農業委員や担い手、国・県をはじめとする関係

差異から耕作放棄地の現況や対策も異なるが、町の姿勢としては山だから、平地だからではなく、一元的な形で特徴のある解消策をしっかりとやっていくことが非常に大切と思っている。まずは「人・農地プラン」の策定が必要と考えており、農業委員や担い手、国・県をはじめとする関係

Q 道の駅の雇用問題、宿泊設備の計画は怎么样了なっているか

A 取締役会で具体的に組織の全体像や経営方針などを検討する



佐藤定男議員

用する人数は何人か。募集時期はいつになるか。

まちづくり交流課長 雇用計画では正社員

問 道の駅運営の現場責任者である総支配人の人選はどうなっているか、現在の状況を伺う。

町長 総支配人は単にまちづくり会社の運営だけでなく町の行政施策、歴史・文化などを十分理解し、

町民と良好な関係を維持できる人物を求めている。候補者は町職員、外部登用など広いエリアから選定したい。取締役会などの審議を経て28年度の適切な時期に決定したい。

問 従業員について、最終的に雇

まちづくり交流課長 バス・トイレ、洗面所、押入れ等を含め約10坪ほどの部屋が4室、そして同じ設備を備える2室に区切るこ

とができる20坪ほどの部屋が1室という構成である。10坪の4室は1人でも利用可能な4人部屋としている。広間を含めて余裕をもつた場合の人数でトータル20人程度の宿泊が可能である。

問 部屋の様式、お風呂はどのようなものになるか。

まちづくり交流課長 すべての部屋を洋式仕様に考えている。お風呂は4人部屋、大広間ともにトイレ・洗面所を別室とするユニットバス方式を採用したい。

問 道の駅の宿泊設備についてお聞きしたい。まず、宿泊人数は何人くらい可能なのか。

問 宴会を開けるようなスペースはあるか。あるとしたら収容人数はどのくらいか。

まちづくり交流課長 宴会使用については研修室、大広間、カフェを充てることにしている。研修室は3つの部屋に、大広間は2つに区切ることができる。計画では10人から80人程度まで収容可能とみている。カフェについ

くにみもたん キャラクターの商品化は

問 道の駅の活発な商業活動のため、くにみもたんのキャラクターグッズを販売する計画はないか。

町長 実際、道の駅出荷組合のある会員からぜひグッズにした



道の駅プレパーティーでは6次化商品も披露された

いというお話もある。まちづくり会社としても素晴らしいキャラクターであり道の駅は絶好のチャンスだと思っ

Q 平成28年度の高齢者向けの 新規事業の予定は

A 介護予防事業として「通いの場」を 立ち上げたい

問 高齢者向けの事業、いきいきサロンと生きがイデイサービス事業の成果と、平成28年度の新規事業の予定を伺う。

人、協力者86人である。生きがイデイサービス事業は、月3回程度日帰りで、利用者は1月末で52人が5班に分かれての活動をしている。

町長 いきいきサロン事業は、月1回2時間程度で、1月末の実利用者は386

平成28年度の新規事業は、介護予防事業として運動中心の「通いの場」の立ち上げを5

運動に特化して健康維持、介護予防に対応していく。

問 どの既存事業も体操中心でマナー化の心配がある。

シヨシヨなど、笑いかから元気になるような突飛な企画も必要ではないかと思うがいかがか。

問 認知症とともに暮らす社会へ向け、町として高福祉のまちを目指している

が、認知症への具体的な対応策について伺う。

保健福祉課長 「認知症サポーター」を養成する講座を継続して開催し、認知

症の理解を図るための普及・啓発をしている。このほか、昨年度から認知症高齢者を抱える家族に対しての家族介護教室の開催や、今年度の新規事業で徘徊高齢者位置情報端末での見守り対策事業などを行っている。

問 認知症サポーターの小中学校への出前講座など、町独自の効果的な対応策になると思うがいかがか。

保健福祉課長 子どもか

ら大人まで、そしてお年寄り同士でも認知症を見守る体制づくりはこれから大事になる。今後の認知症対策に参考としたい。



松浦和子議員

問 新規事業と既存事業の違いについて伺う。

町長 既存事業は生活のフォロー、

新規事業の通いの場は元気老人対策である。運動指導士の指導で、

いきいきサロンなど既存事業のパターンの中で対応にいかに対応にアクセントを付けられるかと思う。十分意を踏まえて対応したい。



いきいきサロンを通しますます元気

Q 「農業振興ビジョン計画」が必要と考えるが町の考えは

**A 個別計画の精度を高め具体化を図る
ほうが非常に効果的と考える**



村上 一議員

問 農業情勢の変化、米価の下落により今の農業の状況を考えると、人・農地プランは重要な事業である。町として長期展望に立って「国見町農業振興ビジョン計画」などを作成し進めていくことが必要と考えるが、町の考えを伺う。

町長 町の農業振興に関する計画は、最上位計画として国見町振興計画がある。個別の具体的な計画として、人・農地プランや農業振興地域整備計画など、生産者に直接関係する計画を策定しその推進を図っている。

農業をとりまく情勢は、高齢化や担い手不足、生産基盤整備の課題など大変厳しく、それらに対応していくための中長期的な「農業振興ビジョン」の必要性は十分認識している。ただ、各論の個別計画の制度を高め、より具体的に回していくことのほうが非常に効果があると考えている。

国や県の農業施策の方向性や、生産者の意見要望などを踏まえ、農業振興ビジョンの必要性があるのか十分見極め対応していく。

問 小坂地区で実施されている人・農地プラン事業推進の経過と事業内容について伺う。

産業振興課 課長 小坂地区はほ場整備が完了し農地の集積もある程度進んでおり、人・農地プラン策定の結果により、6名の方が担い手として活動している。今年度、地域の農業活動や生産活動に活かすため、1反歩(10アール)当たり2万円、730万円ほどの地域集積協力が交付された。

また、人・農地プランは一度策定して終わりではなく、話し合いを通じて随時見直ししながら、その推進を図ることとしている。

問 農地中間管理機構の活用について、町の考えを伺う。

産業振興課 課長 原則、人・農地プランに基づき農地を出したという方は、農地中間管理機構を通じて担い手に貸し出すと、小坂地区のように地域集積協力が入るメリットもある。農業委員会などを通して個人的な貸借もできるが、国・県をはじめ、農地中間管理機構を活用した農地の集積を進めている現状もあり、町としても制度を活用しながら今後の農業の推進に対応していきたい。



町内各地区で人・農地プランの説明会が行われている



阿部泰議員

Q 土砂災害などのない

まちづくりへの取り組みは

A 「減災」や「自助」を意識した

まちづくりを進める

問 土砂災害警戒区域指定にともない、不動産価格が下落する。町の固定資産評価の見直しはあるのか。

土砂災害警戒区域指定にともない、不動産価格が下落する。町の固定資産評価の見直しはあるのか。

対する一定の安全策を講じなければならぬ構造制限が設けられていることから、固定資産評価の減額補正を行っている。

砂防ダムは県の事業。管轄する県北建設事務所に確認したところ、現時点で設置の計画はない。

課長 土砂災害特別警戒区域内の宅

地については、建築をする場合、土砂災害に

問 県や町では、土砂災害警戒区域から避難するソフト面と併せて、砂防ダム

町内の土砂災害警戒区域・特別警戒区域は、今後増加するののか。

すべての調査が終了しているわけではないので、今後も河川や沢などのイエローゾーンについて指定が順次増えるものと考えている。

課長 住民は自分の住む地域が安全区域かわからない状況である。住民への説明の予定を伺う。

防災マップが仕上がるので、3月9日から町内5地区で自主防災会役員への説明会を開催する予定である。

問 土砂災害警戒区域の住民は、一度も土砂災害が起こった事実がないことから、危険に對しての認識に行政と住民との開きを感じる。危機感を高めるための考えは。

土砂災害警戒区域外に在し、平成26年度には町防災倉庫として備蓄食料や資機材を配置した場所でもある。指定避難所に位置付けるべく、今後所要の手続きを進めていく。

課長 石母田集会所は、土砂災害警戒区域外に在し、平成26年度には町防災倉庫として備蓄食料や資機材を配置した場所でもある。指定避難所に位置付けるべく、今後所要の手続きを進めていく。

石母田地区の人々は、石母田集会所を緊急災害避難所として要望しているが、指定はできないのか。

今後の土砂災害などのないまちづくりへの取り組みについて伺う。

町長 これまでの様々な災害の教訓を活かし、「減災」の考え方を基本とし、町内会自主防災組織などの充実を図り普及啓発に努め、そして町民一体となつて連携を図りながらまちづくりを行っていききたい。

町民一人一人や地域で、災害や防災への意識を持ってもらうことも大変重要。先ほどの防災マップを説明する機会を一つの契機とし

町民一人一人や地域で、災害や防災への意識を持ってもらうことも大変重要。先ほどの防災マップを説明する機会を一つの契機とし



貝田地区に設けられている砂防ダム

Q 廃校利用した施設を今後どう運営していくのか

A 地元運営協議会との連携を図り
利活用に努めたい



渡辺勝弘議員

問 旧小坂小学校は高齢者の軽運動施設「小坂ふるさと館」として開設されているが、その後の利用状況を伺う。

町長 5月の本格始動から1月末までの延べ利用団体は139団体、利用人数は

約2200人である。様々な広報活動を行うことにより、町全体での活用が図れているものと考え、当初予定の成果となっていると認識している。

問 小坂地区以外の方々への周知は万全だったか。

企画情報課長 周知については、万全であるかの判断は困難だが、小坂地区以外の利用が58%であることから、一定の認知がされていると考える。

問 高齢者の軽運動施設となっていくが、今後はどのように取り組むのか。

企画情報課長 介護予防室、介護予防サポーター養成講座を継続する。また、介護保険法の改正を受け、新しい介護事業に移行していく。

問 利用が増えれば、日中の管理者と夜間の管理者を考えるべきではないか。

企画情報課長 運営については小坂地区運営協議会にお願いしている。今後も協議会からの相談に対して、町も一緒に考え支援していく。

問 旧大木戸小学校を歴史資料館として、集めた膨大な資料をどこまで維持管理していくのか。

生涯学習課長 国見町民がこれまで築き上げてきた遺産である。町では、これまで守り継がれてきた膨大な資料を後世に受け



小坂ふるさと館での介護予防サポーターによる運動教室

継ぐことを目的として再整理を進める。

問 ボランティアの協力を維持していくための方策はあるのか。

生涯学習課長 文化財ボヤ郷土史研究会と協力しながら、確保、研究などによって育成に努めていく。

問 子どもたち、学生たちの意見を反映できるものはあるのか。

町長 ガイダンスの内容や情報発信の方法など、若い世代の方に興味を持って知ること、学び、伝えるもらう。地元と町が十分連携することで、地域の世代を超えた取り組みも重要と考えている。

Q 阿津賀志山防塁の観光客の受け入れ態勢は

A 周辺整備の必要性から委員会で検討している

問 阿津賀志山防塁の発掘調査結果が昨年6月にまとめられた。改めて調査の目的を伺う。

生涯学習課 長 防塁が築かれた当時の

の様相を示すことで、奥州合戦についての理解を深め、東北の歴史

や文化に親しみ、歴史

観光の素材として地域

振興にも貢献する。ま

た、子どもたちを含め

郷土意識を養い、文化

財保護意識の普及を図

るためである。

問 発掘調査を基に策定された阿津賀志山防塁整備の基

本方針を伺う。

生涯学習課 長 基本方針として、はじめに防塁の規模、遺構の範囲をさらに明確に調査し、国の未指定の地域について追加指定とともに土地の公有化を進める。さらに保存状態が良好な箇所については、土塁と堀の機能、そして大規模な特性を活かしてスケール感を実感できる整備を進める。

問 整備の期間はどのくらいか。

整備の期間は、平成27年から36年までの10年間としている。また、地形の良好なところとしては国道4号線北側及び下二重堀地区を挙げて整備を進める。

生涯学習課 長 基本構想では、平成27年から36年までの10年間としている。また、地形の良好なところとしては国道4号線北側及び下二重堀地区を挙げて整備を進める。

問 ただいまの2か所以外に整備を考えているところはあるのか。

生涯学習課 長 すでに指定になつている山頂部、防塁の始点地区、遠矢崎地区など計5か所が挙げられている。

阿津賀志山がよく見え、その方向に防塁が築かれていくことがよくわかり防塁の形が最もよく保存されている。

さらに下二重堀の南側の池には、平泉から分けていただいた美しい古代ハスの花が広く咲き、個人やグループだけでなく、最近では観光バスで見に来る人々もいる。

問 先に整備を進めるとしている国道四号線の北側は、防塁がよく見えるだけでなく見晴らしが大変よいので観光スポットとして有力な素材と考えられる。また、下二重堀は、

しかし、駐車場が狭く、トイレがない、道が狭くて観光バスが入りにくいというのが現状である。観光客の受け入れ態勢をどのように整備していくのか。

企画情報課 長 下二重堀地区及び国道四号北側地区において、歴史まちづくり計画、あるいは、阿津賀志山防塁整備基本構想に周辺整備の必要性をうたっており、現在整備と活用のための検討委員会で検討しているところである。



中尊寺ハス池から見た阿津賀志山防塁



松浦常雄議員

Q 高齢化による地域活動の ありかたは

A 地域の力を再評価しながら住民と町、 各団体の協働でのまちづくりが求められる



浅野富男議員

ともなっている。

問 今後を担う若い世代が定住しないことについて、現在はそのように分析しているか。

今後を担う若い世代が定住しないことについて、現在はそのように分析しているか。

企画情報課長 地方には特徴のある自然や歴史的な建造物、風情のあるまち並み、連綿と受け継がれる祭りや行事など、都市とは違う魅力がある。若い世代に地域の誇りを醸成していくことが必要と考える。

問 奉仕作業や共同作業では参加者に負担がかかる。これまでのような画一的な要請は難しいのではないか。柔軟な対応が必要かと思うがいかがか。

企画情報課長 共同作業については、共同作業を育てるために必要な農作業の一部であり、それが里山の景観も守ってきた。なお、町が依頼する共同作業については、できるこ

問 今後増えていくと思われる単

身高齢者世帯をどのように援助していくのか。

とに参加してもらおうというように理解してほしい。

企画情報課長 福祉や健康増進を目的とした数々の事業を進めている。また、外出支援など生きがい対応事業、さらには見守りや相談活動にも取り組んでいる。

問 住み慣れた土地に住み続けられることが理想で、町民にはサービスを受けているという実感が必ずやだ。預かった税金をどのように返すのかが行政の仕事と思うがいかがか。

町長 町が孤立することのないように、国や県をはじめ近隣の市町、さらには首都圏、友好自治体などとの連携と交流を深めることで将来につなげたい。これまでも、震災の復旧・復興、除染をはじめ、元気活力事業、高齢者に関する事業、子どもに関する事業など様々な対応をしている。今後も地域を大切に町民目線で取り組んでいく。

問 町周辺の世帯も徐々に増えていくように思われる。地域あるいは集落としての活動がなくなればその地で暮らし続けることが難しくなると思うが、このようになった要因をどう見るか。

町長 社会環境が変化してそれにもない生活が多様化する。都市と地方の格差そして少子化、特にその根底にあるものは都市と地方の経済格差だと思ふ。また、社会生活への魅力の格差も地方から都市部への人口流出に拍車をかけるこ

問 今後増えていくと思われる単



震災後行われなかったクリーンアップ作戦も27年度に復活

Q 県北浄化センターの汚泥は 2年間で全量搬出されるのか

A 来年2月末までに完了見込みである

問

汚泥は、約束どおり2年間で全量搬出できるのか。

町長

本年2月中旬までに約2万5000トのうち約31%の約7700トが処理され、現在約1万7300トが保管されている。1月、2月の処理稼働率が1日処理量約

60トで、運転を行っており、実績を踏まえると来年の2月末までに完了できるペースで順調に汚泥が処理されている。

現在、県北浄化センターの汚泥から放射能は出ていないのか。

問

現在、県北浄化センターの汚泥から放射能は出ていないのか。

課長

1月のデータでは、16日間について放射能物質は検出されていない。15日間が20〜111ベクレルで、雨

天や融雪のときに検出されているが、これはコンポストに出せる範囲内の放射能の数値のため、今のところ全量搬出している状況である。

※コンポストとは
下水汚泥を発酵腐熟させた肥料。

問

現在、福島市の汚泥を県北浄化センターに流入するための工事が進んでいる。

が、放射能が検出されれば流入はしない約束である。この点で問題は無いのか。

課長

現在、流域下水道右

岸幹線の工事が進められている。福島市の堀河町終末処理場の右岸幹線への接続については、県から放射能の影響がなくなるまで接続できないと認識しているとの説明があった。

危険箇所の安全対策をどう考えているのか

町も同様に認識している。

問

現在は、町内会で用水堀や排水堀の草刈作業を行っている。転落の恐れがあるなど危険な作業になっているが、安全対策をどう考えているか。

問

徳江大排水の傾斜の強い危険な場所はシートを張って草が生えないようにするなどの対策をする考えはあるのか伺う。

課長

傾斜の強い場所は芝

課長

安全対策については基本的に受益者の皆様にお願いをしており、対応できないような場合に要望に基づいて個別対応をしている。なお、大排水の構件については、水路の構造上、コンクリートで補強された部分に足掛け金具などを設置できるように現在対応している。



着々と処理されていく汚泥
(県北浄化センター)

村上正勝議員

2月8日から9日の2日間、岐阜県池田町に行政調査に行っていました。

池田町とは、平成25年5月に災害時相互応援協定を、平成27年8月に友好交流協定を締結し、交流の深い町です。

今回の調査内容は、

- ①議員定数削減の実態について
- ②道の駅運営について

また、1日目の調査終了後には、池田町議会議員との交流会も開催されました。

目指す議会像を明確に

議員定数削減の実態について

2月8日

説明者 岐阜県池田町議会

岩谷 真海 議長

池田町では、平成の大合併後に段階的に議員定数を削減し、現在は10名です。

【定数削減のメリット】

●常任委員会、特別委員会

に全議員が参加し、全員の見解を集約できる。

【定数削減のデメリット】

- 議長が委員長を兼任、新人議員が副委員長職に就任など議会構成が難しい。
- 当選ラインの最低得票数がアップし、地区の推薦がないと立候補が難しい。

メディアも活用し町の名前を広める

道の駅運営について

2月9日

説明者 道の駅池田温泉

寺田 直樹 駅長

平成23年に開業した道の駅池田温泉は、管理は町で行い、毎月決まった家賃だけ支払って運営はテナントごとに独自で行われている珍しい形の道の駅でした。

温泉と隣り合わせの道の駅という条件を活かしてメディアにいかに取り上げてもらうかを考えて運営していくことで町の名前が広まるメリットがあるとのこと。

岩谷議長から、「削減後の問題が多く以前の12名でもギリギリの状態だった」との言葉もあり、国見町でも定数問題は議論を重ね、目指す議会像を明確にしながら慎重に取り組む必要があると考えます。

国見町の道の駅も、町の特性を最大限に利用し、發揮していくことが必要だと感じました。

(報告者 村上 一)



店舗ごとに空間が仕切られて屋台村のような道の駅池田温泉

一部事務組合報告

※一部事務組合とは
複数の市町村が、事務の一部を共同で行うために設置する団体

送水管の移設工事費など当初予算を決定

福島地方水道用水供給企業団議会

(自然の水を浄化し、水道水として国見町、福島市、桑折町など3市3町に提供する事務組合)

【定例会】

2月22日、企業団議会定例会が開催され、27年度補正予算や送水管移設工事を行う28年度当初予算が審議され、どちらも可決されました。

◆平成28年度当初予算

◆収益的収支予定額
収入 45億5651万円

支出 48億9985万円
◆資本的収支予定額
収入 5億9364万円

支出 30億2250万円
(収支差引不足分は、過年度分の留保資金などで補います。)

(報告者 東海林一樹)

議会傍聴をしてみませんか

次の定例会は6月21日開催予定です

受付簿に住所・氏名などを記入するだけで気軽に傍聴できます。また、議案審議がわかりやすくなるよう、傍聴者には議案資料を提供します。

詳しくは議会事務局へお問い合わせ下さい。
TEL 585-3295 (直通)

「私もひと言」原稿を募集

「私もひと言」と題して、議会だよりにみなさんからの意見や要望、議会を傍聴した感想などを掲載します。日頃から思っていること何でも結構です。字数は600字(400字詰め原稿用紙1枚半)程度です。どしどしお寄せください。

広報常任委員長 渡辺勝弘
(事務局 TEL585-3295)

傍聴者からの

声

「議会に関心のある人が多いと感じた」

3月議会を傍聴したみなさんからアンケートにより感想をいただきました。

- 初日は傍聴者が少ない。開催中また来てみたい。
(60代・女性)
- 12月と同様、議会に関心のある人が多いと知り安心した。
(60代・女性ほか)
- 町長の施政方針や提案理由の説明も傍聴者に配布してほしい。
(60代・女性)
- 何を言っているかさっぱりわからない議員さんがいた。また、昨年度から一度も一般質問に出ていない議員さんがいるがどうしたのか。
(不明)
- どうでもいい質問が多いのに時間がかかりすぎ。もっと勉強して聞きやすく話してほしい。
(60代・女性ほか)
- 一部の議員だが、小学生の模擬議会かと思えるようなやりとりがあるので精進してほしい。
(60代・男性)
- 議員に対して答弁した内容の進行について、検証等が遅いのではないかと感じた。
(60代・男性)
- 言語表現が堅苦しい。
(80代・男性ほか)
- 議員さんたちに認識不足の感がある。言葉の定義や現状を踏まえてほしい。
(60代・男性)
- 初めて議員の一人一人が良く勉強されているとわかった。また、各課長の答弁がわかりやすかった。
(70代・女性)
- 町の皆様一人一人のために議員の皆様一生懸命がんばってください。
(70代・女性)
- 原発に対しての議論もなく、こんなに静かな議会で、国見町で良いのか。
(70代)
- 議員も高齢化している。ぜひ30代からの若い議員を。女性が輝ける社会に向けて女性議員も3分の1くらいは必要ではないか。世代を越えた交流で庁舎にふさわしいフレッシュな議会をぜひ！
(女性)
- 議員定数が多い。7名希望。
(60代・女性)

議会の動き

3月3日 ～17日	3月議会定例会
3月3日	総務文教常任委員会、産業建設常任委員会、議員懇談会、広報常任委員会
3月5日	ウッドスタート宣言協定締結式及び誕生祝い品贈呈式、桑折地区交通安全協会森江野部会定期総会
3月6日	奥州街道ど真ん中！くにもみ春のフードフェスタオープニングセレモニー
3月10日	広報常任委員会
3月11日	県北中学校卒業証書授与式
3月12日	東日本大震災を考える町民のつどい
3月15日	正副議長・委員長会議、全員協議会、議員懇談会
3月16日	第20回国見町フォトコンテスト審査会
3月17日	議会運営委員会、全員協議会、議員懇談会
3月18日	くにもみ幼稚園修了証書授与式 国見の道の駅開業1年前プレ・パーティー
3月19日	藤田保育所修了証書授与式
3月20日	町商工会青年部設立50周年記念式典
3月22日	町空家対策協議会、 県北浄化センター環境を守る会総会
3月23日	国見小学校卒業証書授与式
3月24日	町民生委員推薦会、町交通対策協議会会議

3月25日	東日本大震災復旧復興対策推進国見町民会議藤田方部会
3月26日	町自衛隊協力会創立20周年記念音楽演奏会、 国見カラオケ愛好会30周年記念祝賀会
3月27日	第14回国見町剣道祭
3月28日	第20回国見町フォトコンテスト表彰式、 教職員離任式
3月29日	東日本大震災復旧復興対策推進国見町民会議役員会
3月31日	退職職員辞令交付式、広報常任委員会
4月1日	新規採用職員辞令交付式、教職員着任式
4月2日	藤田保育所入所式
4月5日	桜ライトアップ点灯式
4月6日	国見小学校入学式、県北中学校入学式
4月8日	くにもみ幼稚園入園式、広報常任委員会、 伊達郡町村議会議長会議(福島市)
4月11日	伊達地方消防本部・中央消防署庁舎落成式(伊達市)
4月13日	町内会長会議
4月14日	生活環境推進員会議、広報常任委員会
4月15日	総務文教常任委員会、産業建設常任委員会
4月16日	町郷土史研究会総会、町体育協会総会、 内谷春日神社例大祭・太々神楽奉納
4月20日	議員懇談会、遺族会定期総会
4月21日	寿クラブ連合会総会 議会報告懇談会(～23日)
4月24日	身体障がい者福祉会定期総会
4月28日	阿津賀志学級開講式・交通安全大学証交付式、 町PTA連絡協議会評議員会懇親会

議会そして道の駅

以前から傍聴しようと思っていた議会定例会、私の背中を押してくれたのは地元の議員さんでした。

新しくなった役場庁舎、議場のある3階まで、まっすぐ行けるエレベーターが備えられています。さらに足の不自由な方々のために車イスも用意してあります。

傍聴席は全体が見やすくなっており、質問者、答弁者の声もマイクを通して聴きやすくなっています。

私が傍聴した時はイスを追加したくらい、多くの方々が傍聴にいらつしやいました。

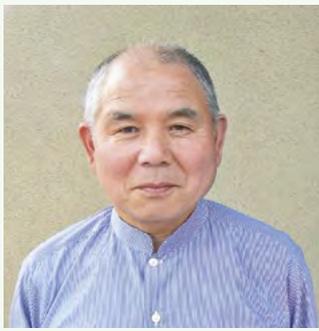
質問内容も今、最も関心のある道の駅の件、そして、これから多くなるかも知れない

認知症の件など、いろいろな角度からの質問と答弁、勉強してるなあ、というのが率直な感想です。

私事で恐縮ですが、自分は旅行が好きで年に7、8回は一泊で妻と出かけております。特に道の駅、高速道路のサービスエリア、必ずと言っていいほど寄り道をいたします。そして、そこではか食べられないもの、そこでしか売っていないものを見つけては食べたり、お土産に購入したりして温泉と共に人生を楽しんでおります。

我が国見町の道の駅、今、工事の真最中です。先日オーブン1年前前のプレパティイ、食の文化祭が開催されました。地元の食材を使った料理がたくさん並べられました。食べてみました。うまいです。味は抜群です。160人の作られた方々の心意気を感じられました。交通の便も良いですから必ず成功させましょう。

私が国見町の道の駅、今、工事の真最中です。先日オーブン1年前前のプレパティイ、食の文化祭が開催されました。地元の食材を使った料理がたくさん並べられました。食べてみました。うまいです。味は抜群です。160人の作られた方々の心意気を感じられました。交通の便も良いですから必ず成功させましょう。



一條 善助さん
(太田川町内会)

町議会が最高の栄誉を受賞

全国町村議会議長会表彰



2月5日、国見町議会は、地域の振興発展と住民福祉の向上のため議会の活性化に努めた功績が高く評価され、全国町村議会議長会会長より表彰されました。

2月24日に開催された福島県町村議会議長会の定期総会で、東海林議長に表彰状が伝達され、3月議会定例会の席上で披露されました。

3月の定例議会では、新年度予算案、補正予算案、条例制定・改正案、その他の案件を含め42の案件が審議され、すべて原案の通り可決されました。

新年度の一般会計予算案については、4日間にわたり各課から説明を求め、つぶさに議案を調査しました。また、議案の内容について、一つ一つの事業が真に町民のためになるように、議論を重ねました。

議会だよりでもわかりやすく紹介するように努めましたので、よく読んでいただければ幸いです。

今後も議会活動についてご理解をいただけるように一層努めてまいります。(松浦 常雄)

発行責任者

東海林 一樹

議長

広報常任委員会

委員長

副委員長

委員

同

同

同

渡辺 勝弘
佐藤 定男
浅野 富男
阿部 泰藏
松浦 常雄
村上 一

